

キャラクター名
加賀見 由紀

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ハヌマーン	ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	高校生
オプション		年齢	不明(高校2年生)	性別	女?
覚醒	命令	衝動	加虐→憎悪	初期侵食率	35%
出自	孤独な魂	経験	煩悶	邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	1	0	0			1	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	4	1	0			5	戦闘移動	12
社会	2	0	0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	4		調達		
運転:			芸術:			知識: 文学	1		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
モバイル	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
川谷 花子	P 親近感	N 劣等感		
河井 蒼汰	P 友情	N 悔悟		
霧谷 雄吾	P 感服	N 不信任		
槌田 真冬	P 好意	N 隔意		
甘草 弥太郎	P 信頼	N 食傷		
草野 晃弘	P 同情	N 不快感		
川見 鏡	P 憧憬	N 憐憫		

最大財産P: 4 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果:	衝動判定+1D、侵蝕率基本値+5							
オリジン:レジェンド	5	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	シーン間【精神】を使用する判定の達成値+Lv*2							
生き字引	1	2	メジャー	至近	自身	意志	-	
効果:	全ての〈情報〉に代用して情報収集判定を行える。判定+[Lv]D							
天性のひらめき	3	4	メジャー	-	-	-	-	
効果:	あらゆる判定のクリ値-LV(下限7)、戦闘では使用不可							
サイレンの魔女	5	5	メジャー	視界	シーン(選択)	RC	-	
効果:	攻撃力+[Lv*3]の射撃攻撃、装甲値無視、コンセ組み合わせ不可							
勝利の女神	5	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果:	判定直後に使用、達成値+[Lv*3]、ラウンド1回							
ラストアクション	1	5	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果:	戦闘不能時即座にメインプロセスを行う。シナリオ1回							
空の楽器	1	-	メジャー	視界	効果	自動	-	
効果:	大気を操って音楽を鳴らす							
ドクタードリトル	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	あらゆる言語を使いこなす							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【PC4】
●ロイス: 槌田 真冬
《説明》
君は高校生だ。だが、ただの高校生ではない。オーヴァードの力を駆使して日常を守るUGNエージェント……の手伝いをたまにしているUGNイリーガルだ。君の意思か、組織の都合かはわからないが、正式なエージェントとはなっていない。
そんな君はいつも通り微細な変化を見せる日常を歩み、今日も登校して、授業を受けて、放課後は部活に行ったり、バイトに行ったり、帰りに寄り道したり、やっぱり直帰しようとしているかもしれない。何なら学校をサボっていたっていい。
……しかし、今日は何だか嫌な予感がする。そんな折、君の携帯の着信音が鳴った。
相手はクラスメイトの槌田からのようだが……？

《表向き姿》
高校二年生の女子生徒。顔は良い部類に入るのだが纏っている空気はひたすら「地味」であり、話しかけるものはあまりいない
いつも図書室で静かに本を読んでいる。本のジャンルは文学から資料集、漫画本まで様々

《真実の姿》
学校で広まった怪談「紫鏡」、それがレゲネイドにより力と意思を持った存在。その際に芽生えた人格はかつていじめによって自殺した少女「加賀見由紀」に酷似しているようだ。
「紫鏡」は図書室に存在する紫色の縁の鏡で、その鏡で自分の顔を見るときとも顔色が悪く映る。そこから「あの鏡は見た人の死に顔を移している」などと言う噂が立ち、次第に尾ひれがついていき、「いじめられ自殺した少女が映る」「この鏡(または映る少女)のことを二十歳まで覚えていないと呪い殺される」など次第に凶悪な怪談へと変化していった。
怪談が実体化した彼女？は怪談で語られている呪いの力を有してしまっており、彼女の顔を二十歳まで覚えていたものは急病に罹り亡くなってしまふ。ただし